

1. はじめに

■計画策定の趣旨

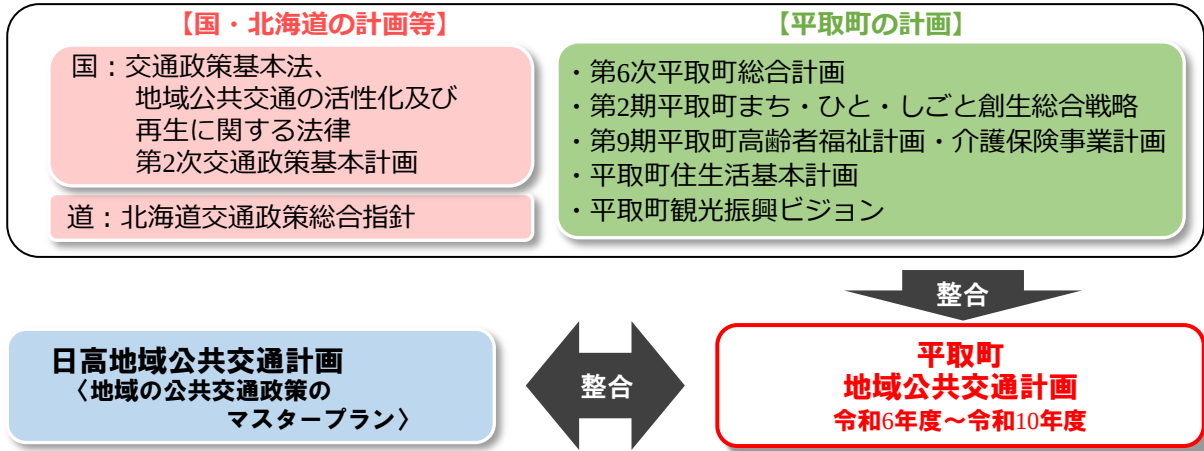
本計画は、町民の生活や地域の観光等を支える持続可能な交通体系を構築するため、公共交通政策のマスタープランとなる「平取町地域公共交通計画」を策定するものです。

■計画区域・期間

- 計画区域は、平取町の全域とします。
- 計画期間は、令和6（2024）年度～令和10年（2028）年度の5年間とします。

■計画の位置付け

本計画は、国や北海道、地域の上位・関連計画を踏まえ、町の上位計画である総合計画等や関連計画等と整合・連携を図りながら、地域の持続可能な交通体系の構築を目指します。

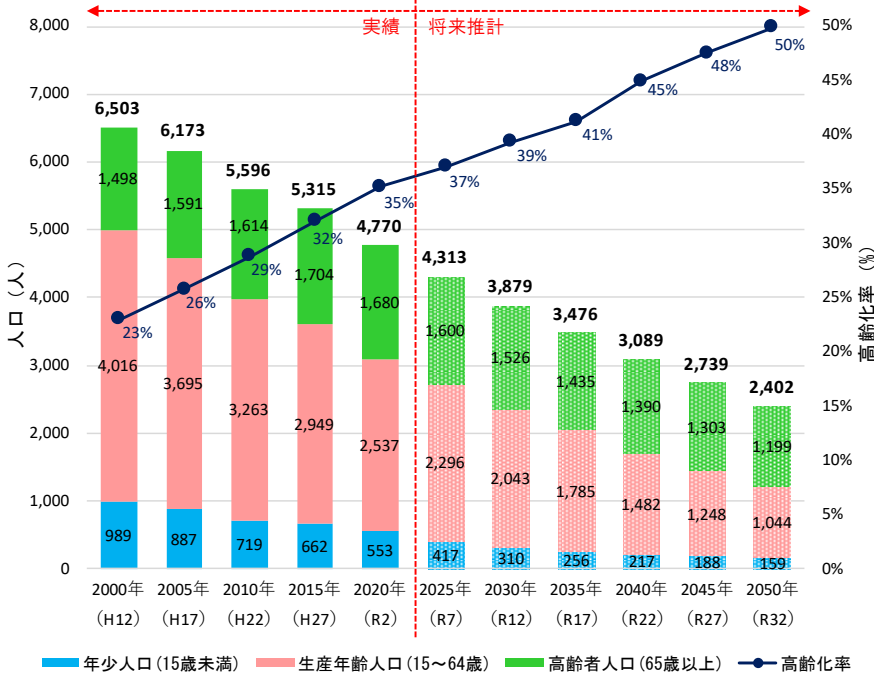


2. 平取町の現状

平取町の人口は5,000人弱で、20年前と比較すると、3割以上減少しています。今後も人口減少が予想されており、25年後には約4割減少することが想定されています。

- 特に年少人口と生産年齢人口の減少が顕著で、20年前と比較して4割前後減少しています。
- 高齢者人口も2020年から減少に転じていますが、全人口の減少が著しいため、現状で35%に達している高齢化率は、今後も上昇が予想され、30年後には50%に達すると予想されています。

▼年齢層別人口及び高齢化率の推移

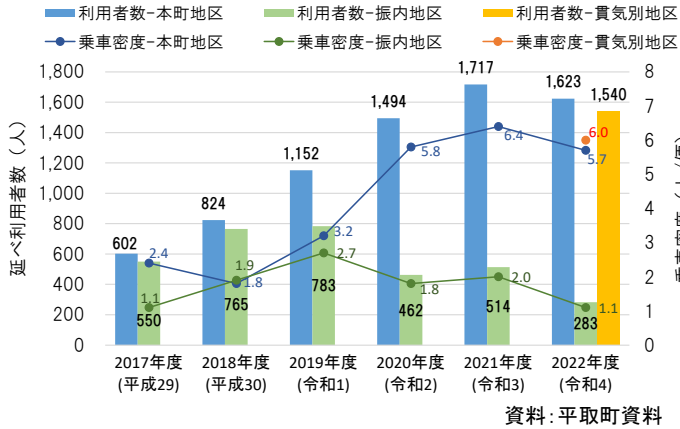


資料：国勢調査（2000～2020年）、将来推計人口（2025～2050年）

3. 地域公共交通の現状

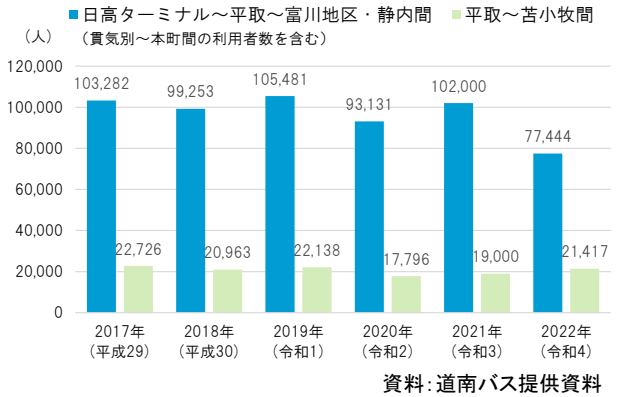
- 平取町デマンドバスは、2021年度まで2地区、2022年度から3地区で運行されています（乗車運賃：2022年1月4日以前は100円、以降は無料）。
- 利用者は、本町地区と貫気別地区と比べて、振内地区が少なく、近年、大幅に減少しています。

▼平取町デマンドバスの利用状況



- 町内の路線バスは、日高ターミナルから平取町を経由して日高町富川地区や静内を結ぶ路線、平取町本町と苫小牧を結ぶ路線が運行されていますが、町内の貫気別と本町を結ぶ路線は、2022年4月に大幅減便、2023年4月に廃止されています。

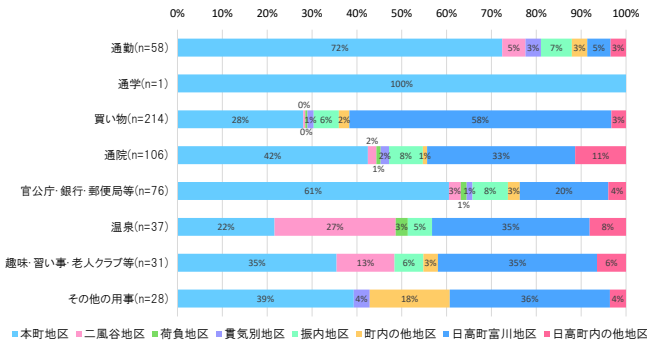
▼町内路線バスの利用状況(町外区間の利用者数を含む)



4. 移動特性・ニーズ調査

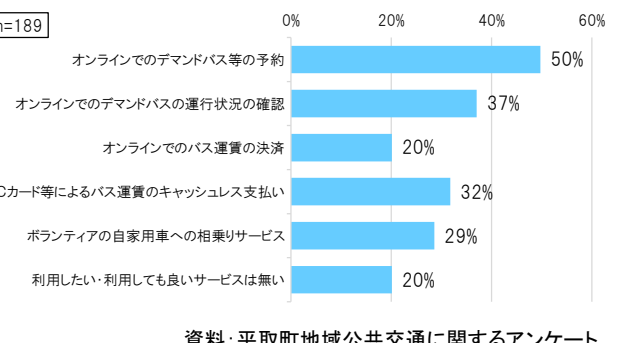
- 通勤や官公庁・銀行等を目的とした移動の目的地は、町の中心である本町地区が60%以上を占め、通院や趣味・習い事等の目的地は、本町地区と隣接する日高町の富川地区が同程度です。買い物の目的地は、日高町富川地区が本町地区よりも多くなっています。

▼平取町内及び日高町への外出の目的地(外出目的別)



- 導入された場合に「利用したい・利用しても良い」と思うサービスとして、「デマンドバス等のオンライン予約」が約50%、「オンラインでのデマンドバスの運行状況確認」が約35%、「バス運賃のキャッシュレス支払い」と「相乗りサービス」が約30%の方に挙げられています。

▼交通に関する新たなサービスの導入



5. 地域公共交通の課題

平取町の地域公共交通に関わる現状・問題点や上位・関連計画における地域公共交通の方向性を踏まえた「平取町の地域公共交通に関する課題」は、下記のとおりです。。

- 課題①：人口減少、少子・高齢化が進展する中、広く分布する町民の生活の足を維持・確保
- 課題②：地域公共交通に対する町の財政負担が増大し、担い手不足が深刻化する中、地域公共交通の持続性を確保
- 課題③：IoT等を活用した新たな交通サービス導入による生活圏交通の利便性向上
- 課題④：苫小牧市、札幌市等への広域移動の利便性を向上
- 課題⑤：来訪者が公共交通を利用しやすい環境整備を推進

6. 基本的な方針・目標

基本理念：町内外の生活移動や広域移動を支える持続的な地域公共交通の構築

基本方針Ⅰ 町民が安心して生活できる生活圏交通の維持・確保

・高齢者から子供たちまで、平取町民が将来にわたり安心してゆたかに生活できるように、町内や隣接する日高町への買い物や通院、通学などの日常生活移動を支える利便性の高い生活圏交通の維持・確保を目指します。

【目標1】町民生活や地区特性に適合した生活圏交通の維持・確保

【目標2】DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進による生活圏交通の利便性向上

基本方針Ⅱ 町外との広域移動を支える公共交通体系の形成

・札幌市や苫小牧市など、北海道や地域の中心都市と平取町との町民や来訪者の移動手段を確保するため、広域交通の維持・確保や広域交通と生活圏交通の接続の円滑化に努めます。

【目標3】地域中心都市等にアクセスする広域交通の維持・確保

【目標4】広域交通と生活圏交通の接続の円滑化

基本方針Ⅲ 持続的な地域公共交通の実現

・バスやタクシーのドライバー不足や公共交通の利用低迷等の課題がある中、将来にわたって地域の公共交通を維持できるように、担い手確保の取組や町民や来訪者の公共交通の利用促進等により、公共交通の持続性確保に努めます。

【目標5】地域公共交通の担い手の確保

【目標6】公共交通の積極的な利用を促す環境の構築

7. 目標達成のための施策・事業

〈目標1に対応〉

施策①：デマンドバス・町内路線バスの運行の維持・確保

〈目標1,5に対応〉

施策②：地区の実情を踏まえた町内移動手段の検討

〈目標1,2に対応〉

施策③：デマンド交通等の高度化・利便性向上に向けた新技術の導入検討

〈目標3に対応〉

施策④：日高地域の関係機関との連携による広域交通の維持・確保

〈目標2,4に対応〉

施策⑤：情報提供や接続拠点強化等による接続性・利便性向上

〈目標5に対応〉

施策⑥：地域公共交通を担う人材確保の取組

〈目標4,6に対応〉

施策⑦：観光客の公共交通利用の促進

〈目標6に対応〉

施策⑧：町民の公共交通利用の意識醸成を図る取組

8. 計画の評価指標・推進体制等

本計画の基本方針の実現に向けた目標について、達成状況を確認するための評価指標とその目標値を以下のとおり定めています。

本計画に定める各施策・事業は、本計画の策定に向けた協議を行ってきた「平取町地域公共交通活性化協議会」において、連絡調整を行いながら、推進します。

評価指標と【令和10年度目標値】

①平取町デマンドバスの利用者数【3,300人/年】

②平取町デマンドバスの収支率【6.4%】

③平取町デマンドバスの公的負担額（利用者1人当たり）【4,361円/人】

④ボランティア運送サービスの導入地区数【1地区】

⑤平取町～中心都市を乗継1回以下で結ぶ公共交通ネットワーク数【3本】

⑥機能強化を図った平取町デマンドバス、路線・高速バスの乗継拠点数【3箇所】

▼公共交通体系の位置付け・役割及び確保・維持等の方針

位置付け		対象	役割	確保・維持等の方針
広域交通		高速バス 路線バス（町外系統）	札幌市や苫小牧市等、北海道や地域の中心都市への町民や来訪者の広域移動を担います。	移動実態やニーズを踏まえたネットワークの最適化を地域で検討しながら、必要に応じて、国や北海道の補助を活用して、運行を維持・確保します。【目標3】
生活圏交通	町内幹線	路線バス（町内系統）	町内の中心部（本町・振内町）や隣接する日高町（富川地区等）を接続し、町民の生活移動を担います。	関係市町や運行事業者と連携し、利用促進等を図りながら、町財政による補助を行い、運行を維持・確保します。【目標1,5,6】
	フィーダー系統	平取町デマンドバス（本町地区・振内地区・貴氣別地区3系統）	町内幹線がカバーしていないエリア等から町内幹線や広域交通に接続し、町民の生活移動を担います。	高度化や利便性向上等を検討しながら、地域公共交通確保維持事業（フィーダー補助）を活用して、持続可能な運行を目指します。【目標1,2,6】
	補完交通	タクシー・ハイヤー スクールバス 社会福祉バス 町立病院送迎バス サロン送迎バス 等	タクシー・ハイヤーが個人の事情に合わせた移動を補完するほか、各移動手段は、通学や通院、買い物、温泉などの利用目的に応じた町民の生活移動を補完しています。	地区の実情や町民ニーズ等を踏まえて、適宜運行形態の見直しや新たな補完交通の導入等を検討しながら、これら補完交通を継続的に確保します。【目標1,5】
乗継拠点		ふれあいセンター（平取バス停） 山の駅ほろしり館（振内案内所バス停） 富川ターミナル（整備中）	フィーダー系統と町内幹線、町内幹線と広域交通等の乗継における拠点としての役割を担います。	機能強化等を図り、乗継の円滑化や利便性向上を図ります。【目標4】

▼基本理念・方針及び目標を踏まえた平取町の公共交通体系のイメージ

位置付け	対象	凡例等
広域交通	高速バス・路線バス（町外系統）	
町内幹線	路線バス（町内系統）	日高ターミナル～振内案内所～平取～富川高校前 平取～富川大町～苫小牧駅前 平取～静内
	フィーダー系統	本町地区 振内地区 貴氣別地区
生活圏交通	タクシー・ハイヤー	緑字
	スクールバス	一般混乗あり 一般混乗なし
	社会福祉バス 町立病院送迎バス サロン送迎バス 等	利用目的に応じて、地区、曜日等を限定して運行
	乗継拠点	ふれあいセンター（平取バス停） 山の駅ほろしり館（振内案内所バス停） 富川ターミナル（整備中）

